

山行番 NO. 1555  
日時 2013. 07. 14 (日) 晴  
山域 奥秩父・乾徳山 (2031m)  
コース 登山口発7:27—第一林道—第二林道—銀晶水—錦晶水8:34—扇平9:18—鎖場—乾徳山10:18—北のピーク10:25~12:15—水のタル—国師ヶ原—錦晶水12:43—登山口13:29—ももの里温泉

標高差 上り 登山口約988m~乾徳山2031m=約1043m  
参加者 後藤隆徳、勝又陽一、浜道久美子、勝又 薫、掛橋智美=5名

今日の山行は乾徳山。石川県出身の私には初めて聞く山である。スリリングな岩場があるとのこと、穂高連峰を経験したことのある私には恐怖より楽しみが勝る。

朝から富士山が裾野まではっきり見えて気分も上々。私の気分とは裏腹でGリーダが運転する車は赤信号で何度もストップが掛かる。これも浮き足立った私に、気をつけよとの忠告なのかもしれない。私の心が少し引き締まる。

中央道を下り、勝沼の葡萄畑から遠くに目指す乾徳山が見える。「遠いなあ」と、かお姫さん。「まったく遠いなあ」と私も心の中で呟く。行く道沿いには、桃、葡萄とおいしそうな果物畑が続く。Gリーダの頭の中は桃でいっぱいのように車中も桃の会話が続く。桃を収穫中の農家の人を見ると、たまらず沿道に車を止めた。Gリーダの一言で、はま姫さんが農家のお母さんに桃ゲッツ（ふるーい）の交渉に行く。とても気前のいいTしげ農園のお母さんから桃を1個100円で26個（本当は26個で2500円）購入した。更にかお姫さんの巧みな言葉（かお姫マジック）で昼食用5人分5個の桃までゲッツ（これはただ）。仲間のおかげで私の気分は益々上々。かお姫さんありがとうううう。

Gリーダが運転する車は迷わず登山口付近まで進む。登山口駐車場は既に車がいっぱいだったが、経験豊富なGリーダは、沿道を歩く人を横目に、更に先に車を進め、駐車できる特等席を確保した。（先にいたのは一台でちょうど二台分のスペース）またまた私の気分は上々。

私はいつものように登山準備を整え、初めてヘルメットを装備した。どんな山が待っているのだろうと、わくわくしながらザックを背負う。しかし、ザックが重い。夏山訓練のためにザックを重くしたのを忘れていた私にはより重く感じられ、私の気分が少しダウンした。

山の勾配は少し急だが登り易い道が続いている。Gリーダも「この道を作った人は偉い」と言っただけである。二つの林道を横切り、しばらく登って銀晶水があったが、ここには水はほとんど流れていなかった。途中、二人、四人とグループを追い越していく。私は一生懸命、前に着いて行くだけだか、私たちはペースが速いようだ。

まだまだ登り易い道が続いている。錦晶水があった。ここで初めての小休憩をした。錦晶水には水が流れ、その水を飲み、喉を潤した。ここには、昔、使われていたトイレもあった。



モモ農家のFさん



朝取りのモモ



錦晶水



痩せた鹿



月見岩

富士山を背に扇平



再び登り始めると直ぐに、登山道からほんの数メートル先にいた鹿の親子に出会った。子鹿は必死に餌を食べ、親鹿はこちらを警戒しながら餌を食べている。相当、飢えているのであろう。鹿の姿を何度も振り返り、私は何となく登りの傾斜が厳しくなったと思いながら登り続けた。

間もなく、視界が開け、遠くに富士山が見えた。景色を楽しむのも早々にまた登り続けた。扇平まで来ると15人位の人が休憩していた。この先の岩場を考え、Gリーダーの言葉で先を急いだ。これで、約20人抜きとなった。しかし、夏山訓練のために重い荷物を背負った私達の足は重い、最後尾を歩いてくれる陽殿が、一番感じていることであろう。



登攀開始



かけ姫・はま姫



かお姫



G殿



富士山遠望

岩場が多くなってきた。大きな岩場にはしっかりと鎖があった。この岩場を必死に登り安心したところだったが、頂上までにはもっと大きな岩場（紅白歌合戦で言うとオオトリだろうか）が待っているとGリーダが言った。その言葉で気持ちを引き締め、再び登ると直ぐに頂上への岸壁、オオトリが現れた。下山してくる人達より先にアタック。

先鋒、はま姫、次鋒、かお姫、二人とも難なく登っていく。中堅が私。手をかける場所、足の置く場所、三点支持を心掛けるが、登り方が分らない。戸惑っていると、すかさず、副大将のGリーダからアドバイスを受け、何とかオオトリを登りきった。大将の陽殿は、さすがに、あっという間に登っていた。ここは穂高の岩場とは全く違う岩壁だった。

頂上で記念写真、ヘルメットの姿が恥ずかしいが、満足感に満ちたいい写真が撮れたと思う。頂上は狭く、昼食のために北のピークに向かった。頂上と富士山が見える絶好の場所を独占出来た。



はま姫

G殿・かけ姫



かお姫



下方に陽殿



北峰に向かう



昼食



朝のモモ



昼食風景



姫様たち



恒例のGリーダーとの握手。直ぐにザックからビールを取り出した。まずは、ここまで一緒に来た仲間に乾杯、そして自分に。気分は最高となった。予定時間より早く行動していたため昼食はゆっくり時間をとることになった。各々、持参したお弁当を味わう。山では何を食べても美味しい。今回は朝ゲッツした桃までであった。

昼食を終えて、下山開始。下りの足場はかなり悪い。慎重に下る。慎重に。昔、牛乳を売っていたと言う、山小屋の跡地まで来て、一気に錦晶水まで下った。さっきの鹿だろうか一頭だけいた。

しばしの休憩。ここでまた、水を飲む。鹿に分かれを告げ、登った道をひたすら下った。水の音が聞こえてきた。駐車した場所には川が流れていた。今回の山行はもう直ぐ終わろうとしていた。眼下の木の間から車が見えて来たのと同時に、先に駐車されていた車がちょうど立ち去ったのが見えた。「もう終わりかぁ」と少し寂しくなった。

無事に帰って来られたのも一緒に行ってくれた仲間のおかげです。今日は一日楽しく過ごせました。ありがとうございました。

また、山行をご一緒出来るのを楽しみにしています。

以上



乾徳山頂上

#### その他の記述（L後藤）

1. モモをいただいたFお母さんには、礼状を出しました。
2. 錦晶水のトイレは、問題が無いわけではないだろうが、ないよりあったほうがいいのか？
3. 錦晶水の飲用は特に注意書きはなかったが、鹿が多く汚染の問題はないのだろうか？
4. 錦晶水付近は以前ゴミの山だったが、「山梨山の会」ほかの尽力で綺麗になった。
5. 鹿は痩せていた。昼間、人間の前に平気で出て来るとは相当の数がいるのだろう。
6. 頂上は狭いので、休憩・昼食は北峰が良い。
7. 水のタルの下りは、ちょっと荒れている。
8. 乾徳山は、歩き易い手頃な山の印象。

以上